

八百屋塾通信 Vol.51

八百屋塾ホームページをごらんください
▼「八百屋へ行こう」で検索
<http://www.shoukumi.or.jp/index.htm>

しょうが祭りだ！

江戸時代、八朔(旧暦8月1日)は「生姜節供」と呼ばれて、各地の神社でしょうが市が開かれ
参拝客は、無病息災・厄除けを願って、しょうがを求めました。

■二宮神社(あきる野市) 9月9日



生姜は、神様からの授かりものとされ、例大祭の神饌の一つ。境内には生姜売りの店が並び、厄除生姜を求めて多くの人びとが訪れる



■芝大神宮(港区) 9月11~21日

通称「だらだら祭」。大神宮創建当時、まわりはしょうが畑。古くは「生姜市」といわれ、境内や周辺で、しょうがが売られた。そのようすは広重の錦絵にも描かれている



芝大神宮にある生姜塚(左)と、だらだら祭で売られるしょうが(右)

■波自加彌神社大祭(金沢市) 6月15日

奈良時代、加賀国に日照りが続いたとき、雨乞いにより霊水が湧き出た。感謝の供物として生しょうがを捧げこの大祭が始まった



■笹崎宮・放生会(福岡市) 9月12~18日

「合戦の間多く殺生す、よろしく放生を修すべし」とのご神託から始まった、と伝わる放生会。約500軒もの露店が軒を連ね、のべ100万人が訪れるという。新しょうがは、かつてはこの周辺に広がっていた畑の産物だった



◆しょうがMEMO◆

- 原産地: インドを中心とした熱帯アジア
- 日本への渡来: 3世紀までに、中国から米とともに
- 食べる部分: 根ではなく塊茎
- 分類・塊茎の大きさ: 大しょうが(根)、中しょうが(加工用)、小しょうが(葉)
- 分類・栽培: 根しょうが、筆しょうが(軟化・芽)、葉しょうが
- 産地(2021): 1位高知、2位熊本、3位千葉

6月16日(日)八百屋塾「しょうが&にんにく」

講師: 青森県産業技術センター 野菜研究所 鹿内靖浩氏
国産の大しょうがと新しょうが、中国産しょうが、チューブしょうがなどを食べくらべました

●しょうがの情報は八百屋塾ホームページで●

- ◆講演: 2013年6月16日 高知県園芸連 平山智雄氏
- ◆商品紹介: 東京青果(株) 長掛雄治氏

▼動画ページ

実行委員など取材班による産地視察をごらんください→



▼ホームページ

これまでの八百屋塾の記録をごらんいただけます→

